

## 伊藤友子先生のご退職に寄せて

外国語学部長 野 田 耕 司

伊藤友子先生には1994年に本学にご着任以来、30年もの長きにわたり、教職科目の担当並びに教職課程の運営にご尽力を賜りました。また、2006年から2020年まで教職課程委員長を務められ、運営の陣頭指揮に当たられました。定年退職後も後任人事が決まるまでの間、客員教授として本学に残っていただき、外国語学部設置されている中学・高校の英語・中国語・韓国語の教職課程についても、引き続きご助言とご指導を賜ることができ、学部の教員にとってこれほどありがたいことはございませんでした。ことに私は当時、学部の教職課程委員であったため、定年退職後も先生がいらっしゃるというだけで大変心強く、課程の運営に関して何の心配もございませんでした。ここに、これまでの外国語学部へのご貢献に対し、深く感謝申し上げます。

伊藤先生とは外国語学部の同僚として20年以上のおつきあいになります。私は着任1年目に教職課程委員を担当することとなり、右も左もわからない私に懇切丁寧に教職課程の仕組みや業務内容について説明していただきました。その後、先生が客員教授を退職なさる前にも2年間、教職課程委員を務めましたが、20年前同様、親身になって引継ぎの業務を行っていただき、相談にも乗っていただきました。

伊藤先生のお姿で印象に残っているのは、教授会で起立して発言しておられる姿です。今では外国語学部の教授会で、国会の予算委員会のように立って議案について説明したり、意見を述べたりする方はほとんどいらっしゃらなくなりましたが、先生は退職なさるまで起立して発言していたように記憶しています。淡々とした口調ながら、物事の本質を突く意見を述べられていた姿が強く印象に残っています。

教職課程に関して、中国語の教員である私は、教育実習生を毎年多数送り出す英語の先生方に比べてまだ気が楽な方でありましたが、実習に関して何かあった場合、教職課程の専門委員・責任者である伊藤先生がその調整・解決に奔走されたことは想像に難しくなく、それが原因かどうかはわかりませんが、いつもにこやかな伊藤先生のお顔に心なしか、ご心労のようなものがうかがえる時もありました。

伊藤先生の後任人事も決まった今年3月、研究室の片づけをなさっているエプロン姿の先生にお会いしましたが、そのお顔には明らかに、ほっとしたというような安堵の表情が見て取れました。3月末の辞令交付式の日、退職辞令を受け取られ、福岡に戻られる先生に研究棟の玄関でばったりお会いすることができたのも何かの縁かと思いますが、その時に頂いた励ましのことばと、晴れやかな表情は忘れることができません。伊藤先生の新たな門出を祝福するとともに、ますますのご健勝をお祈りして、ご退職記念のことばといたします。